

第 11 回 小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設運営連絡会

議事要録

日 時：令和 2 年 9 月 1 9 日（土）

午前 1 0 時から午前 1 1 時 1 0 分

場 所：資源物中間処理施設

参加者：5 名

傍聴者：6 名

《説明内容》

- ・ 操業状況（11・12月）の説明

《主な質疑等》

1 施設の操業状況について

- （1）月別搬入実績《令和 2 年 1 月～8 月分）
- （2）2019 年度処理系統報告書
- （3）展開検査の結果（ペットボトル・容リプラ）
- （4）主な出来事

2 意見交換

（委員）

- ・ベールというのはプラスチックとかを固めて昭和電工株式会社に持ち込むということですか。大きさや搬出の方法は。それを持ち込んでリサイクルするのですよね。

（組合）

- ・塊は 1 辺が 1 m のサイコロ状です。

（委員）

- ・トラックで搬送ですか。

（組合）

- ・大型トラックで、容リプラについては 3 2 個積んで運んでいます。大体 1 つあたり 200Kg ぐらいです。

（委員）

- ・それを持ち込んで、溶かして材料にするのですか。

（組合）

- ・容リプラにつきましては、1 年間の契約です。前年度の 3 月までは、日本製鉄君津製鉄所の方で、今年 4 月からは昭和電工株式会社に搬出しています。

（委員）

- ・溶鉱炉がある業者ですよね。

（組合）

- ・鉄をつくるためにコークスが使われますが、容リプラはこのコークスをつくる炉で使われています。

(委員)

- ・その材料に使っていると。

(組合)

- ・コークスの材料に使っています。

(委員)

- ・なるほど。再生品と言っても、結局はまたよみがえるのではなくて、燃料として使うと。

(組合)

- ・言い方によってはそうですね。今は昭和電工株式会社で、熱分解をして最終的にはアンモニア製造に使っています。

(委員)

- ・2点ほどよろしいですか。8月28日、29日、31日で活性炭取り換えとその測定やっけていただいているということで、全部良好だった。以前、活性炭取り換えるの時に見学させていただいたと思うのです。この活性炭の取り換えに関しては、定期的に行っているとか何か月に1回行うのか。その運営方法をお伺いしたい。

(組合)

- ・活性炭については、年に1回、替える予定で、今回のデータを見てもその頻度でいいと思っています。

(委員)

- ・6月2日にプラントの電気設備点検を行ったと思うのですが、全停ということは減圧の装置とかもたぶん止まっていると思うのです。その段階での周辺の臭気の状態をできれば確認したかった。そういうところがありますので、もし次回の全停の計画とかがありましたら、ご案内をいただければありがたい。

(委員)

- ・(この)場所はスリーハーモニーっていうのですか。

(組合)

- ・エコプラザスリーハーモニーというのは、組合のホームページ等を使って愛称の募集をいたしました。そこで10件ほど応募があり、(当時の)東大和市に住む中学生がスリーハーモニー、3市で運営し、和むというような意味合い、調和というような意味合いでということで、つけてくれたという経過があります。

(組合)

- ・展開検査ですが、簡単にいうと抜き打ち検査です。パッカー車で回収した資源物をプラットホームに空けて、ガサガサ空けて展開する、そのような検査で、異物がどのくらい入っているのかというようなところを確認します。実際にみなさんが分別を100%しっかりしていれば、そういう検査はいらないですが、残念ながらいろんなものが入ってきますので、そこを確認するという意味で実施しています。資料3に展開検査の様子の写真がありますので、展開検査はこういうものだという事で認識していただければと思います。
- ・(サンプルで)こちらペットボトル、容リプラ。ペットボトルは、ラベルをとってキャップをとって、汚れていない状態とすることがルールなのですが、中身が入っていたりキャップがついていたり、ラベルがついていたり、そういうものも入っています。検査結果は市に知らせて、市の広報に活用してもらっています。ペットボトルはそれほどではないのですが、容リプラの方はひどい。マヨネーズや、コンビニ

で買うお弁当だとか汚れがない状態であることを確認するために行っていますが、包丁、レンガ、石、電池、小型家電、なんでも入ってくるのです。そういうものを注意していただくというので、定期的に抜き打ちで行っています。内容については写真を見ていただければわかりやすいかと思います。

(委員)

- ・2年くらい前になるとと思いますが、何とかガスがえんとつから出てくるとか、ないとか、定期的に出てくるのを公表するのではなかったか。

(組合)

- ・そうではなく、施設の排気の流れ自体がどうなっているのか。そこを見極めたいということです。

(委員)

- ・それだけですか。僕が関わった中ではCO₂とかガスの組成を調べて。2年くらい前だと思うのですが。掲示じゃなくてインターネットに載せるとか載せないとか。なんとなく記憶があいまいですが、そういう話してなかったでしたか。流れは確かに北向きとか南向きとか話しですけども、周辺協議会で環境影響がどうなるのかを検討しますで終わったのではないか。

(組合)

- ・測定は行っています。それは以前にも運営連絡会で報告はさせていただいているますし、VOCに関しては常時の測定という形で、その道路沿いの電光掲示板に表示しています。

(委員)

- ・毎日測定をしているのですか。

(組合)

- ・VOCについては行っております。

(委員)

- ・どんな物質が外に出るのかっていうのは行っているのですか。

(組合)

- ・施設を建設する前に、生活環境影響調査を行っていて、その中で、予測、評価を行っています。

(委員)

- ・それは例えば僕らが見たいというときに、見られる環境になっているのですか。

(組合)

- ・VOCについては常時、電光掲示に出していますし、臭気については年に1回測定しています。

(委員)

- ・やっぱり人体に影響がある物質が出てないかというのは、僕らは一番心配。周辺の居住者は心配だと思うのではと。僕らは距離があるので、あまり不具合はないけど。という話しはしたと記憶していたので。

(組合)

- ・測定データはお示しします。ご理解いただきたいのは、焼却施設ではありませんので、燃やしてないので。選別をして固めているだけなので。亜硫酸ですとか塩化水素ガス、窒素酸化物、ダイオキシン、そういう物質を発生させる施設ではありませんので、そこはご理解いただきたいと思います。

(委員)

- ・先ほどからコロナコロナという話しが出ておりますけども、3市の担当者の方、以前よりお願いしていたと思うのですが、現状厳しいのかなと思うのですが、やっぱり3市合同で、ここだけじゃなく中島町もそうですけど、3市合同で行っているの、3市の担当者、市ごとにバラバラに動きをされていると効果的な運営が難しいのかなと思いますので、何らかの機会、この場にはなくとも、市ごとの横の連携との言い方でいいのかわからないですけど、統一した取り組みなのか、市ごとに例えばですけど、さっきも展開検査の結果で差があるのだと収集方法が違ったりとか異物というか不適合物ですか、の入り方に出ていると思いますので、そこら辺統一して進められるような形というのを衛生組合の方からも引き続きプッシュしていただければと思います。

(委員)

- ・毎回は難しいと思う。2回か3回に1回、各市が来られて。前回前々回。各市の排出物で、武蔵村山市は有料化がまだじゃないですか。特徴的なことってあるのですか。小平市はこうだとか。東大和市はこうだとか。武蔵村山市はこうとか。ごみの出し方で何か特徴的なことは。

(組合)

- ・意見交換したいとみなさんのご要望がございましたので、声はかけさせていただいております。ただし、今回の参加はちょうど議会の時期でもあってタイミングが合いませんでした。次回への参加について、声をかけていきたいと思っています。
- ・小平市と東大和市はそれほど変わらない。一番の特徴は、武蔵村山市は市民の排出段階で、容リプラとペットボトルを一緒に収集しているところです。武蔵村山市はリサイクルセンターがありますので、そちらでペットとプラを分けて、それぞれ別にここに運んできている。それが一番ちがうところです。それについては、令和4年に有料化に向けて今事務を進めていて、その段階では3市同じ方法に統一するという方向で動いています。

(委員)

- ・容リプラをこちらに持って来て、ただ圧縮して固めているだけなのですね。それをリサイクル施設まで運ぶという施設なのですね。

(組合)

- ・おっしゃるとおりです。
- ・資源物中間処理、中間なのですね。間にある、集めてきたものをここで分別してきれいなものを圧縮して、それを出荷してリサイクルしています。

(委員)

- ・それは、例えば焼却施設だと燃やすと思うのですが、ここでそういう物質が出るということはないと。

(組合)

- ・基本的にはないのですが、物理的に固める時にプラスチックに含まれている、プラスチックになり切れなかった有機物、それからもちろん生ごみも入ってきますから、そちらの腐敗臭、こういうものは発生します。燃やしていませんから、物理的なものだけですけども、物理処理でも化学物質の発生はゼロではないのです。

(委員)

- ・ごみ処理場ではないのですか。

(組合)

- ・法律上はごみ処理施設です。

(委員)

- ・実際やっているのは違うような。分別する、中間的な施設ってことなのですね。実際ごみ処理はしてないけど、一応法律上はごみ処理施設。仕分けたものは、あちらの焼却場で処理するということですか。

(組合)

- ・そうではなく固めたものはリサイクル施設に持って行って資源化してもらっているわけですよ。今まではプラスチックが出ますと、燃えるごみまたは燃えないごみになって中島町の施設で焼却したり、焼却する前に砕いて、金属類を取り除いてという作業をしていたのですが、そういう作業よりもリサイクルしていった方が環境にもいいとの4団体の判断がありまして、この施設を作ったのです。ですから今はリサイクルされている分、焼却量が少なくて来たという状況です。

(委員)

- ・以前、ここにあった施設は今やっていることとは全く別物ですか。

(組合)

- ・全く別ではありません。ペットボトルの選別・圧縮・梱包はやっていました。それとビンと缶を扱ってました。だから種類は変わっているということです。ペットは同じですけどビンと缶は別のところで処理しています。

(委員)

- ・以前の施設と同じようなことをやっているということですね。

(組合)

- ・基本的には同じです。

(委員)

- ・燃やしているのではない。

(組合)

- ・燃やしてない。

(委員)

- ・普通、ごみ処理場は燃やしている。そういうものはやってない。煙は出る。

(組合)

- ・出ません。

(委員)

- ・煙は地下に。

(組合)

- ・煙は出ません。
- ・燃やしてないから煙はでませんね。ただ、集めて圧縮するだけです。
- ・集めますよね。その中には資源とならないものを入れる方がいるのです。その中に特に生ごみや汚れが取れないプラスチック容器があると臭いがどうしてもでるのです。そのため臭いを処理する装置を付けています。
- ・仮に出た、残さ、汚れたものとかいうものは、中島町の施設に持って行って、向こうで燃やしている。この場所では燃やしてないです。

(委員)

- ・臭いが出るとか、汚いとかあるのだけど、そういうものとは違うのか。

(組合)

- ・確かに燃えるごみ燃えないごみ、中島町で処理しているものに比べれば、汚くない

ですけど。中身が入ったまま出す人がいるのです。油がついていたり、ひどい時は中身いっぱい出す人もいます。

※終了後、屋上（屋根上）にてシャボン玉を使用した排気流れの確認を行った。

次回 11月21日（土）10:00～